

令和6年度（2024年度）熊本県立芦北高等学校 第1学期終業式

校長あいさつ

令和6年（2024年）7月19日（金）草野 貴光

この1学期を振り返ると、どのようなことが思い起こされるでしょうか。

1学期は、1年の中でも多くの行事が行われました。とても慌ただしく感じた人もいたと思います。体育大会をはじめ、皆さんの生き生きした様子が見られ、学校行事は皆さんにとっても保護者の方、地域の皆様にとっても大切だと感じました。

県大会から九州大会、全国大会へとつながる大会が行われ、多くの方が活躍をしてくれました。有難うございました。

さて、来週には、パリ・オリンピック、パラリンピックが開幕します。楽しみにしている競技もあると思いますが、心に響くことがあるでしょうから、とても楽しみです。

今週は大雨があり、その後、猛暑となりました。私たちにとっては忘れてはならないことが、4年を経過した令和2年7月豪雨です。教訓として防災意識を高く持つことが求められます。自分の身を自分で守るために暑い夏の熱中症対策も必要です。自分で考えて体調と心のバランスを取れるようにしましょう。

改めて皆さんにお願いしたいのは、「命を大切にすること」です。何がきっかけで自分の命が危険に合うか分かりません。自己と他者を認め、人の痛みが分かる人でありたいと願います。

私は、生徒の皆さんの善意を信頼する学校経営を行いたいと考えています。

善意とは、「他に対して持つ好意または好意的な見方。他人のためになるようにという心。他の人・物のいい面を主として見た見方。」のことです。

皆さんは善意にあふれています。その善意をさらに広げていくのが学校です。そして、自分自身にも善意の目を向けてください。善意の目で自分を見るとどのような考え方や見方、行動を取れば良いのかが分かってきます。

例えば、「先生たちがいないからこれぐらいは許される」という判断は誤っていることも分かります。自分で自分を誇れる行動をしていきましょう。

その上で、皆さんに「自立」「自律」することを考えてもらいたい。

皆さんからすると「親離れ」をすることと言えます。保護者からは「子離れ」をすることです。一つの例ですが、高校には保護者の送迎ではなく、自分で校門を通るようにしてもらいたい。様々な事情があるので全員ができる訳ではないことも分かっています。単に面倒だとか、楽だとか、寝坊するからとの理由で送り迎えをお願いしている人は自分でできるようにしてもらいたいと願っています。

車で登校する人はせめて車の中からも挨拶ができる人になってください。

「稚心を去る」という言葉があります。「稚心」とは「子どもっぽい心」のことです。

それを捨て去らない限り、何をやっても決して上達はしません。

この言葉は、人の能力を引き出すにはとても重要な意味を持っています。成長を妨げているのは「子どもっぽい心」、要するに「わがまま」である場合が多いように思われます。

年齢に限らず当てはまります。私にも当てはまります。誰もが心の中に「大人の心」と「子どもの心」が共存し、うまくいかないと「子どもの心」が出てきて、他の誰かやそのときの環境のせいにしてしまいます。うまくいくために、子どもっぽい心を捨て去ることが大切です。できるかどうかは自分にかかっています。

よく考え、自分の良さを知り、さらに互いを認めて支え合い、自ら責任を取れる人になりましょう。

夏休み、3年生は、進路活動が本格化しますので、日々を大切に、助言を受けて正しい情報をもとに判断して進路実現につなげましょう。2年生は、部活動をはじめ学校の中核として活動する場面が増えることを自覚しましょう。1年生は、高校生活にも慣れてきたので心を整えて、自他を思いやる生活を送っていきましょう。

2学期もワクワクする高校生活を過ごせるように、8月30日、2学期始業式、元気に会いましょう。